

専攻教育課程照合表

専門看護分野：がん看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1. がん看護に関する病態生理学	がん看護学特論Ⅰ	がんの分子生物学、遺伝学を含むがんの病態を学ぶ。また、多角的視点から病因・病態を解析、アセスメントする方法を学び、エビデンスに基づき臨床判断できる能力を修得する。	2	2
	2. がん看護に関する理論	がん看護学特論Ⅱ	がん看護の実践に必要とされる主要な理論や概念の基礎を学び、その活用方法について探求する。	2	2
	3. がん治療支援に関わる看護援助論	がん看護学演習Ⅰ	がん患者と家族の特徴を理解し、複雑な健康問題に対する包括的な支援ができるよう理論や概念を活用した看護援助方法について実践的に探求する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. がん薬物療法看護	がん看護学特論Ⅲ	がん薬物療法の有害事象の予防と対処方法、症状マネジメントの方略を学び、患者・家族の QOL の向上に向けた看護支援の方法を探求する。	2	2
		がん看護学演習Ⅱ	がん薬物療法を受ける患者に対するアセスメント方法、および有害事象に対する援助方法を修得し、治療中の QOL 向上に向けた看護支援について探求する。	2	2
	2. 緩和ケア	がん看護学特論Ⅳ	がんの診断から終末期まで、がんによってもたらされる苦痛を理解し、QOL の維持向上に向けて、キュアとケアを統合し包括的かつ実践的な援助方法を探求する。	4	4
実習科目	実習	・がん看護学実習Ⅰ	高度実践看護師の役割である、実践、教育、相談、ケア調整、倫理調整、研究について、がん看護専門看護師の活動を通して学び、がん看護専門看護師に求められる役割を探求する	2	2
		・がん看護学実習Ⅱ	がん薬物療法を受ける患者の診断、治療に伴う臨床判断、身体管理について、がん看護専門看護師および医師の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。	4	4
		・がん看護学実習Ⅲ	様々な困難や複雑な状況を抱え、緩和ケアを必要とするがん患者・家族に対し、がん看護専門看護師および医師の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。また、多職種と連携し、がん医療における様々な療養の場に必要な地域連携の実際を学ぶ。	4	4
				認定合計単位 24 単位	

がん看護学特論 I

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：がんの分子生物学、遺伝学を含むがんの病態を学ぶ。また、多角的視点から病因・病態を解析、アセスメントする方法を学び、エビデンスに基づき臨床判断できる能力を修得する。

2. 教育目標：1) がんの臨床所見から病態を理解するための知識を養う。
2) 事例の討議から看護実践に活用できるアセスメント方法を学ぶ。
3) 学んだ知識から看護ケアに活用できる能力を養う。

3. 教育内容：

- ① がんの特異とされる病因・病態像
- ② がんの治療（1）
- ③ がんの治療（2）
- ④ 呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析（1）
- ⑤ 呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析（2）
- ⑥ 女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（1）
- ⑦ 女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（2）
- ⑧ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（1）
- ⑨ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（2）
- ⑩ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（3）
- ⑪ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（4）
- ⑫ 代謝機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析
- ⑬ 血液・造血器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析
- ⑭ がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント（1）
- ⑮ がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント（2）

4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。

講義・討議：①～⑬、発表・討議：⑭⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：講義の各回の病態生理についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅱ

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 橋爪 可織（本学講師）

1. 教育目的：がん看護の実践に必要とされる主要な理論や概念の基礎を学び、その活用方法について探求する。

2. 教育目標：1) がん看護に必要な理論・概念を理解できる。

2) がん患者がたどる急性期、慢性期、終末期の援助の基礎となる理論について理解できる。

3) 諸理論・概念を活用し、事例分析を行うことができる。

3. 教育内容：

① がん看護に必要な理論の概説

② がんサバイバーシップ

③ 意思決定支援 (1)

④ 意思決定支援 (2)

⑤ 危機的状況にあるがん患者の支援に必要な理論 (危機理論)

⑥ 危機的状況にあるがん患者の支援に必要な理論 (ストレス理論)

⑦ 治療期におけるがん患者のセルフケアを支援するための理論

(セルフマネジメントモデル 1)

⑧ 治療期におけるがん患者のセルフケアを支援するための理論

(セルフマネジメントモデル 2)

⑨ 終末期に必要とされる理論 (死の受容)

⑩ 終末期に必要とされる理論 (悲嘆のプロセス)

⑪ がん患者の倫理的問題の解決に必要な理論

(臨床倫理 4 分割法 / トンプソン・モデル)

⑫ 理論を活用した事例分析(事例展開)

⑬ 理論を活用した事例分析(事例展開)

⑭ 理論を活用した事例分析(事例展開)

⑮ がん看護専門看護師の実践に向けての検討

4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。

講義・討議：①～⑪、発表・討議：⑫～⑮

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】 講義：各回で取り上げる諸理論・概念についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】 講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅲ

2 単位：30 時間（秋学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん薬物療法の有害事象の予防と対処方法、症状マネジメントの方略を学び患者・家族の QOL の向上に向けた看護支援の方法を探求する。
2. 教育目標：
 - 1) 様々ながん薬物療法の特徴について理解できる。
 - 2) 治療による有害事象に対する症状マネジメントについて説明できる。
 - 3) がん薬物療法の臨床試験を受ける患者・家族への看護支援について説明できる。
3. 教育内容：
 - ① がん薬物療法総論
 - ②③ 化学療法（細胞障害性抗がん薬）の基礎
 - ④⑤ がん薬物療法と症状マネジメント（1）
；過敏症、血管外漏出、悪心・嘔吐、食欲不振、口内炎、下痢、便秘
 - ⑥⑦ がん薬物療法と症状マネジメント（2）
；骨髄抑制、皮膚障害、神経障害、性機能障害
 - ⑧⑨ 化学療法（分子標的薬）、免疫療法の基礎
 - ⑩⑪ 化学療法（分子標的薬）、免疫療法を受ける患者の症状マネジメント
 - ⑫⑬ 内分泌療法の基礎と症状マネジメント
 - ⑭⑮ がん薬物療法の臨床試験を受ける患者・家族への看護支援
4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。
講義・討議：①⑭⑮、講義・発表・討議：②～⑬
【教科書・参考図書】：ガイダンス時に指示する。
【事前学習】講義：各回で取り上げる治療や症状についてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅳ

4 単位：60 時間（秋学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：がんの診断から終末期まで、がんによってもたらされる苦痛を理解し、QOL の維持向上に向けて、キュアとケアを統合し包括的かつ実践的な援助方法を探求する。
2. 教育目標：1) がん患者・家族の苦痛を身体、心理、社会、霊的な側面より理解することができる。
2) 症状緩和をはかるためのアセスメントおよびそのアプローチ方法が説明できる。
3) 事例分析によりがん患者・家族の QOL 向上に必要な援助を説明することができる。
3. 教育内容：
 - ①② 緩和ケアの概念と現状
 - ③④ がん患者の抱える全人的苦痛と QOL
 - ⑤⑥ 緩和ケアを必要とするがん患者の家族の理解と看護支援
 - ⑦⑧ 緩和ケアを必要とする患者・家族の倫理的課題
 - ⑨⑩ 緩和ケアを促進するチームアプローチ
 - ⑪ 症状マネジメント；がん疼痛（1）
 - ⑫ 症状マネジメント；がん疼痛（2）
 - ⑬⑭ 症状マネジメント；呼吸困難・倦怠感
 - ⑮ 症状マネジメント；便秘
 - ⑯⑰ 症状マネジメント；せん妄・抑うつ・不安
 - ⑱ 苦痛緩和のための鎮静
 - ⑲ 症状マネジメントとしてのがんリハビリテーション
 - ⑳㉑㉒ スピリチュアルペインのアセスメントと看護支援
 - ㉓㉔ 緩和ケアを必要とする患者・家族の援助の実際（ホスピス、緩和ケア病棟）
 - ㉕㉖ 緩和ケアを必要とする患者・家族の援助の実際（在宅）
 - ㉗㉘ 緩和ケアを必要とする患者・家族の QOL 維持向上への援助（事例分析 1）
 - ㉙㉚ 緩和ケアを必要とする患者・家族の QOL 維持向上への援助（事例分析 2）
4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。
講義・討議：①～⑲、発表・討議：㉗～㉚
【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。
【事前学習】講義：各回で取り上げるテーマについてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学演習 I

2 単位：60 時間（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん患者と家族の特徴を理解し、複雑な健康問題に対する包括的な支援ができるよう理論や概念を活用した看護援助方法について実践的に探求する。
2. 教育目標：
 - 1) がん患者・家族の特徴を理解できる。
 - 2) がんの治療過程における患者・家族の健康問題が理解できる。
 - 3) 複雑な健康問題を持つ患者・家族への看護援助の方法が説明できる。
3. 教育内容：
 - ①② がん患者と家族の意思決定支援と倫理的問題の理解 (1)
治療選択における意思決定支援
 - ③④ がん患者と家族の意思決定支援と倫理的問題の理解 (2) がんゲノム医療
 - ⑤⑥ がん患者と家族の意思決定支援と倫理的問題の理解 (3) 遺伝カウンセリング
 - ⑦ 手術療法を受けるがん患者のアセスメントと看護援助
 - ⑧⑨ 放射線療法を受けるがん患者のアセスメントと看護援助
 - ⑩⑪ 若年・壮年期がん患者のアセスメントと看護援助（事例検討）
 - ⑫⑬ 高齢がん患者のアセスメントと看護援助（事例検討）
 - ⑭⑮ 複雑な精神症状を抱えるがん患者とのコミュニケーション技術
 - ⑯⑰ がん患者の栄養管理
 - ⑱⑲ がんリハビリテーション
 - ⑳㉑ 治療期の QOL を支える援助 (1) リンパ浮腫
 - ㉒㉓ 治療期の QOL を支える援助 (2) アピアランスケア
 - ㉔㉕㉖ 緩和ケア；癒しの技術
 - ㉗㉘ がんサバイバーへの長期的支援：サポートグループ、セルフヘルプグループ
 - ㉙㉚ 複雑な健康問題を持つ患者・家族に対するがん看護専門看護師としての援助
4. 教育の進め方：講義、演習、学生の発表と討議で進行する。
講義・演習・討議：①～㉘、発表・討議：㉙㉚
【教科書・参考図書】：初回ガイダンスで指示する。
【事前学習】講義・演習：各回で取り上げるテーマについてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義・演習内容、討議内容を復習し、学びをレポートする。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学演習Ⅱ

2 単位：60 時間（秋学期）

科目責任者 橋爪 可織（本学講師）

1. 教育目的：がん薬物療法を受ける患者に対するアセスメント方法、および有害事象に対する援助方法を修得し、治療中の QOL 向上に向けた看護支援について探求する。
2. 教育目標：1) がん薬物療法を受ける患者・家族への教育支援技術が理解できる。
2) 治療による有害事象に対する症状マネジメント方法を説明できる。
3) 患者のセルフケア能力の向上に向けた看護支援方法を説明できる。
3. 教育内容：
 - ①② がん薬物療法を受ける患者・家族の理解
 - ③④ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(1)
 - ⑤⑥ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(2)
 - ⑦⑧ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(3)
 - ⑨⑩ 外来がん薬物療法を受ける患者へのチームアプローチ
 - ⑪⑫ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ⑬⑭ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ⑮⑯ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援（事例検討）
 - ⑰⑱ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ⑲⑳ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ㉑㉒ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援（事例検討）
 - ㉓㉔ 外来がん薬物療法（内分泌療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ㉕㉖ 外来がん薬物療法（内分泌療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ㉗㉘ 外来がん薬物療法（内分泌療法）を受ける患者・家族への看護支援（事例検討）
 - ㉙㉚ がん薬物療法を受ける患者・家族の看護支援方法 まとめ
4. 教育の進め方：講義・演習、学生の発表と討議で進行する。病院においてベッドサイドティーチングを受け、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討を行い具体的な看護援助の方略を検討する。
講義・討議：①②⑨⑩、演習：③～⑧⑪～⑭⑰～⑳㉓～㉖、
発表・討議：⑮⑯㉑㉒㉗～㉚
【教科書・参考図書】：ガイダンス時に提示する。
【事前学習】講義・演習：各回で取り上げるテーマについてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義・演習内容、討議内容を復習し、学びをレポートする。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(30%)、ケースレポート(30%)、課題レポート（40%）

がん看護学実習Ⅰ：役割実習

2 単位：90 時間
実施時期：秋学期

科目責任者 杏林大学保健学部看護学科 中島 恵美子
担当者 杏林大学医学部附属病院 原田 和沙

実習目的：高度実践看護師の役割である、実践、教育、相談、ケア調整、倫理調整、研究について、がん看護専門看護師の活動を通して学び、がん看護専門看護師に求められる役割を探求する。

実習目標：1. がん看護専門看護師に求められている役割と機能の概要について説明できる
2. がん看護専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

実習内容：1. がん看護専門看護師に同行し、がん看護専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割と機能を理解する。
(専門看護師の役割である研究については、研究サポート部会にてがん看護専門看護師が活動しているため、その機会を利用し学習する)
2. がん看護専門看護師に必要な知識・技術・態度を、見学体験を通して学ぶ。
3. 実習終了後、がん看護専門看護師とカンファレンスを行い、1 および 2 の内容について検討し課題を見出す。

実習時期：M1 後期（実習に必要な専門科目の履修が終了した 1～2 月に実施）
10 日間臨地にて実施する

実習場所：杏林大学医学部附属病院

実習指導者：杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙

指導教員：中島 恵美子

評価：日々の臨地実習記録とカンファレンス内容（40%）実習終了後レポート（60%）
（実習終了後レポートは実習終了 2 週間を目途に提出）

がん看護学実習Ⅱ：上級看護実践実習（がん薬物療法看護分野）

4 単位：180 時間

科目責任者	杏林大学保健学部看護学科	中島 恵美子
担当者	杏林大学保健学部看護学科	橋爪 可織
	杏林大学医学部附属病院	原田 和沙
	杏林大学医学部附属病院	新田 理恵
	杏林大学医学部腫瘍内科学教室	長島 文夫

実習目的：がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者の診断、治療にともなう臨床判断、身体管理について、がん看護専門看護師および医師（指導担当医師）の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。

- 実習目標：
1. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）において、がん看護専門看護師に求められる、直接ケア、相談、ケア調整、教育、研究の役割について説明できる。
 2. がん薬物療法を受ける患者の QOL を高める看護を実践できる。
 3. 医療スタッフのニーズ調査、相談をもとに問題解決やケアの質的向上に向けたケア調整、教育を実施できる。
 4. がん薬物療法におけるがん看護専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

- 実習内容：
1. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者を受け持ち、看護実践を主体的に行い、がん看護専門看護師の視点から考察する。
 2. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者の診察に参加、治療実施の判断、その後、外来治療センターで実施される治療処置を体験、患者への教育指導と評価を実践し一連のプロセスで学ぶ。
 3. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者の多職種連携カンファレンス、カンサーボードへの参加などをおし、患者の治療効果をたかめる看護実践を考察する。
 4. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）に関する病棟スタッフの教育ニーズをアセスメントし、がん看護に関する教育案を作成、実施・評価をする。
 5. 実習終了後にがん看護専門看護師とカンファレンスを行い、1,2,3,4 の実習内容について検討し自己の課題を見出す。

実習時期：M2 前期（実習に必要な専門科目の履修が終了した 5～6 月に実施）
病棟実習 10 日間、外来治療センター・外来診療室実習 10 日間。

実習場所：杏林大学医学部附属病院（化学療法病棟、外来治療センター、外科診療室）

実習指導者：がん看護専門看護師 原田 和沙、がん化学療法看護認定看護師 新田 理恵
腫瘍内科医師 教授 長島 文夫

指導教員：中島 恵美子 橋爪 可織

評 価：日々の臨地実習記録とカンファレンス内容（50%）実習終了後レポート(50%)
（実習終了後レポートは実習終了2週間を目途に提出）

がん看護学実習Ⅲ：上級看護実践実習（緩和ケア分野）

4 単位：180 時間

科目責任者	杏林大学保健学部看護学科	中島 恵美子
担当者	杏林大学保健学部看護学科	量 倫子
	杏林大学医学部付属病院	原田 和沙
	杏林大学医学部付属病院	正保 智恵美
	杏林大学医学部付属病院	木下 ゆみ
	杏林大学医学部麻酔科学教室	鎮西 美栄子
医療法人社団エトワール会たんぼぼクリニック		井上 俊之
多摩たんぼぼ訪問看護ステーション		千葉 信子
多摩たんぼぼ訪問看護ステーション		佐藤 裕介
聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス科		三枝 好幸
聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス病棟		太田 るみ子

実習目的：様々な困難や複雑な状況を抱え、緩和ケアを必要とするがん患者・家族に対し、がん看護専門看護師および医師（指導担当医師）の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。また多職種と連携し、がん医療における様々な療養の場に必要地域連携の実際を学ぶ。

- 実習目標：
1. 緩和ケア（病院、在宅、ホスピス）においてがん看護専門看護師に求められる、直接ケア、相談、ケア調整、倫理調整の役割について説明できる。
 2. がん患者の症状緩和における臨床判断のプロセスと身体管理を体験し、苦痛緩和のための看護実践能力を修得する。
 3. 様々な困難や複雑な状況を抱える患者・家族に対する倫理調整を考察できる。
 4. 地域連携について、緩和ケアが必要ながん患者の病院から在宅療養への退院調整から移行期支援における看護支援と多職種連携について考察できる。
 5. 地域包括支援の視点から在宅における症状緩和と多職種連携について、訪問診療・訪問看護実習を通して修得する。
 6. ホスピスにおける症状緩和および End of Life Care やグリーフケアのあり方を考察できる。

- 実習内容：
1. 症状緩和が必要な患者を受け持ち、看護実践を主体的に行い、がん看護専門看護師の視点から考察する。
 2. 緩和ケアチームの活動に参加し、複雑で困難な症状を有する患者に関する相談を受け、円滑なケア提供のための調整について検討する。
 3. 緩和ケア外来および訪問診療において、症状緩和をはかる患者の診察および治療処置に参加し、医師の指導のもとに可能な治療技術を体験し、看護実践に活用することができるように考察する。

4. 病院・在宅・ホスピスいずれかの実習において、様々な困難や複雑な状況を抱える患者・家族の倫理問題を明らかにし、問題解決や対処の方法について検討する。
5. 地域連携について、病院から在宅療養へ移行のための退院調整カンファレンスに参加し、退院調整看護師指導のもと可能な部分については実践し、在宅療養移行に向けた看護支援と多職種連携の在り方について考察する。
6. 地域包括支援の視点において、病院から在宅療養に移行したがん患者の訪問看護および訪問診療に同行し、指導担当医師の指導のもと実践可能な医療処置について体験し看護実践に活用できるようにする。また、訪問看護により在宅におけるがん患者への関わりと病院から在宅療養移行期支援に必要な視点について考察する。
7. ホスピスにおける症状緩和について、緩和ケア外来および入院患者に対し、指導者と共に実践、看護ケアの振り返りを行う。また、End of Life Care やグリーフケアのあり方について学び、可能な部分については実践しホスピスケアについて考察する。
8. ホスピスにおける多職種（チャプレン、音楽療法士、ボランティアなどを含む）の活動の実際を見学、およびボランティア活動を体験し、それぞれの関わりから、ホスピスにおける多職種連携を学び、看護実践に活用できるように考察する。

実習時期：M2 前期・後期（必要な専門科目の履修が終了した 7～10 月に実施）
 緩和ケアチーム・緩和ケア外来実習 10 日間（退院支援実習を含む）
 在宅実習 7 日間、ホスピス実習 7 日間

実習場所：杏林大学医学部附属病院（緩和ケア外来、緩和ケアチーム、患者支援センター）
 聖ヨハネ会 桜町病院 ホスピス科外来・病棟
 医療法人社団エトワール会 たんぽぽクリニック
 営利法人 多摩たんぽぽ訪問看護ステーション

実習指導者：[緩和ケアチーム・緩和ケア外来 実習指導者]

杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙
 杏林大学医学部附属病院 緩和ケア専従医師 鎮西 美栄子
 杏林大学医学部附属病院 緩和ケア専従看護師
 がん性疼痛看護認定看護師 正保 智恵美
 杏林大学医学部附属病院 患者支援センター退院調整看護師 木下 ゆみ

[ホスピス病棟・ホスピス外来 実習指導者]

杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙
 聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス科部長 医師 三枝 好幸
 聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス病棟師長 太田 るみ子

[在宅実習 実習指導者]

杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙

たんぽぽクリニック 院長 井上 俊之

多摩たんぽぽ訪問看護ステーション 統括管理者

精神訪問看護認定看護師 千葉 信子

多摩たんぽぽ訪問看護ステーション 所長 佐藤 裕介

指導教員：中島 恵美子 量 倫子

評 価：日々の臨地実習記録とカンファレンス内容（50%）実習終了後レポート(50%)
(実習終了後レポートは実習終了 2 週間を目途に提出)